

# MES LC-A Shore / 船上装置不要の主機診断

－ 初期費用 1/7、CMAXS LC-A級の診断精度を実現 －

2026 年 4月17日

株式会社三井E&S  
舶用推進システム事業部  
テクノサービスセンター



## I. LC-A Shoreで今すぐ始められること



初期投資を抑え、既存環境のまま短期間で導入可能。

- ① **低コストで開始可能**  
初期費用 1/7 で開始可能
- ② **既存環境でそのまま利用可能**  
船上装置の追加不要\*1  
(既存プラットフォームと陸上連携)
- ③ **機能は上位と同等**  
異常検知・状態診断はCMAXS LC-A並み\*2  
⇒ 実績ある診断ロジックを活用

補足:

\*1 解析に必要な計測点(例:EMS、機関室温度、過給機回転数 など)が不足する場合があります。その場合には、既存プラットフォーム殿のサービス範囲としてご調整をお願いします。

\*2 自動トラブルシューティングは上位版CMAXS LC-Aのみ対応

## 2. なぜ、いま必要か(管理現場の課題)

現場の判断負荷が高まり、見落としリスクが増加している。



人員ひっ迫・世代交代により、  
判断が属人化している



主機の高度化により、  
経験だけでは判断が難しくなっている



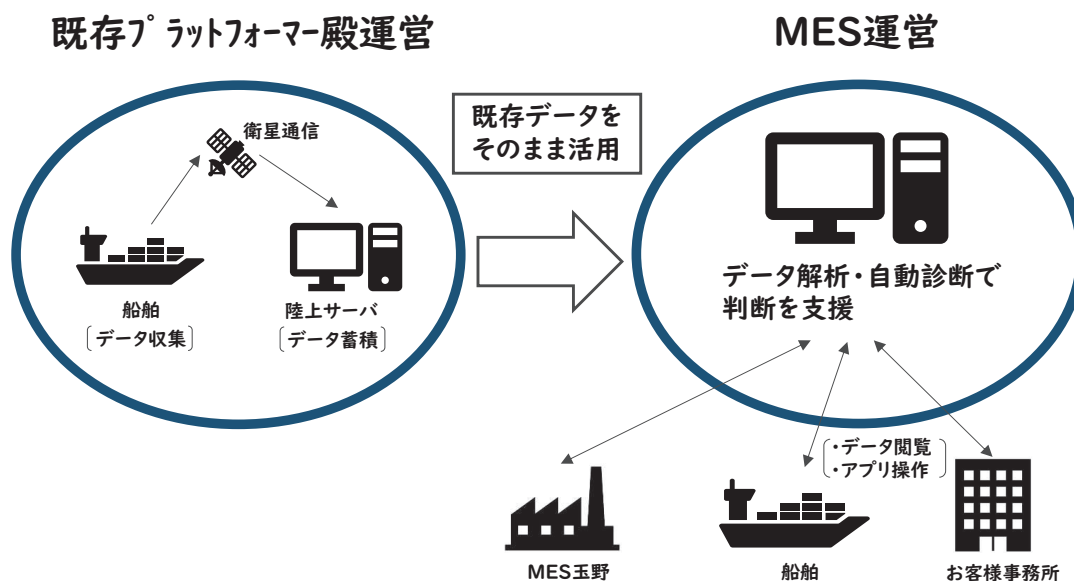
データはあるが、  
意思決定に使えていない

## 3. 判断を支える仕組みを外部化



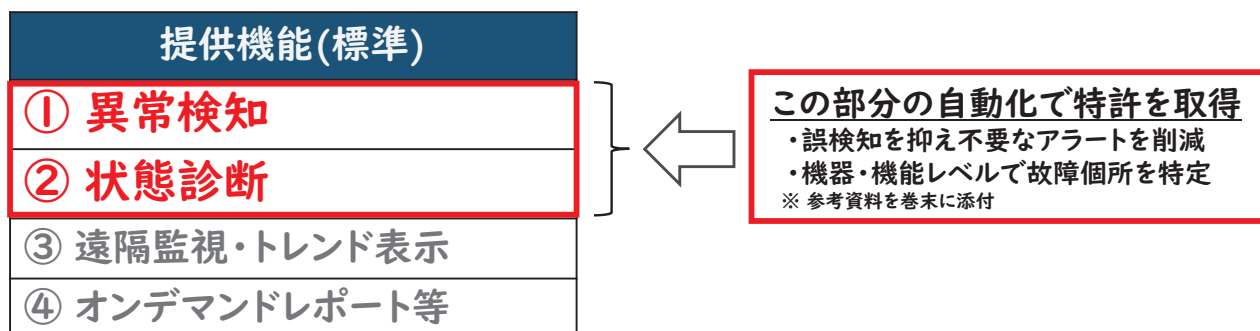
## 4. 船上装置を追加せずに導入可能

既存プラットフォームと連携し、船側負担なく導入可能。

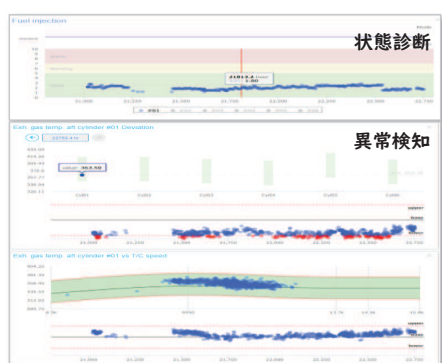


## 5. 異常検知・状態診断をすぐに活用可能

異常の早期発見から原因特定までを一貫して支援し、保守判断を容易にします。



異常検知・状態診断の表示例



オンデマンドレポートの出力例



## 6. e-GICS Advanceとの違い(LC-A Shoreの優位性)

観点	e-GICS Advance	LC-A Shore (導入しやすく実用的)
船上装置	必要	<b>船上装置不要*</b>
診断ロジック	機械学習中心 (解釈が難しい)	実績ある工学的手法 (根拠が明確)
状態診断	性能/燃焼に限定	機器・機能レベルで 故障個所を特定
初期費用	従来	従来比 <b>1/7</b> (低リスクで導入可能)

注記：解析に必要な計測点(例:EMS、機関室温度、過給機回転数など)が不足する場合があります。その場合には、既存プラットフォーム殿のサービス範囲としてご調整をお願いします。

## 7. 船団全体の運用を標準化

	観点	内容
①	目的(=価値)	<b>船団全体を同一の仕組みで可視化・診断</b>
②	背景(=共感)	多くの船主様が自社船団に他社製主機を併有
③	対応(=できる理由)	他社主機への適用も可能( <b>実績あり</b> /個別対応可)

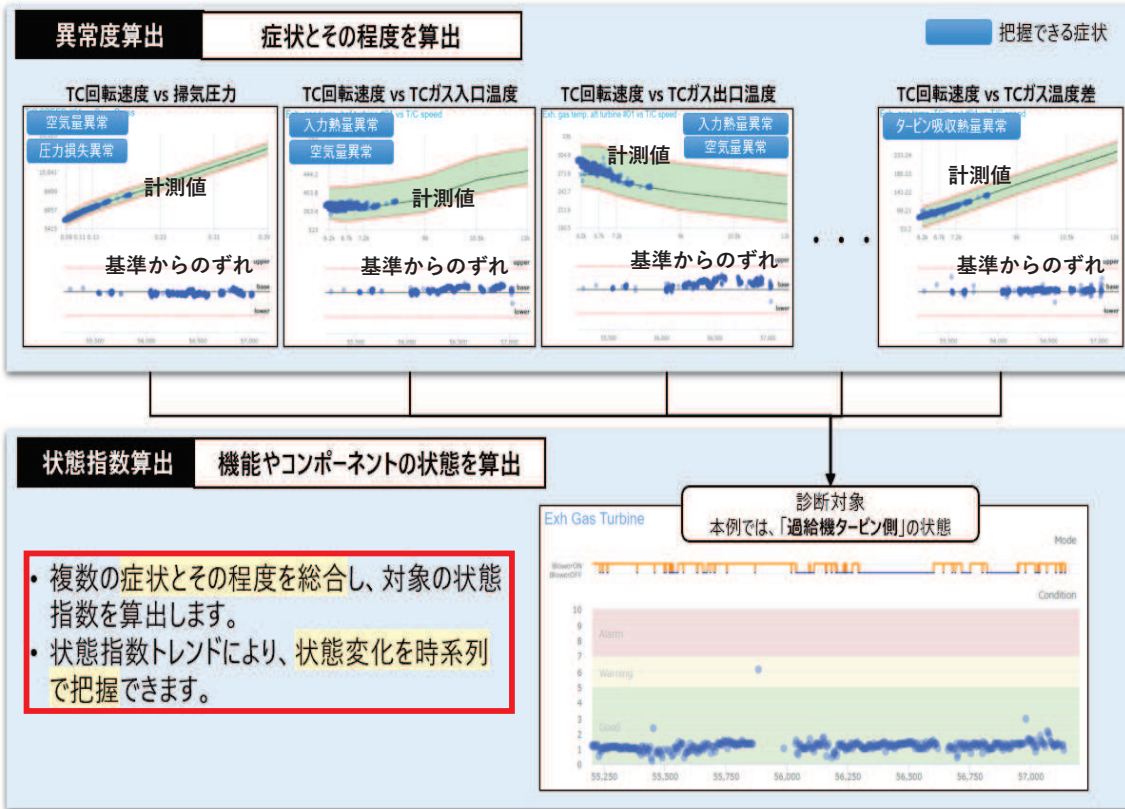
### ① 最短3ステップですぐに導入可能



### ② LC-A Shoreは、船上装置を追加せず、データを「判断」に変える陸上解析サービス

— まずは1隻からすぐに導入可能です —

特許取得技術



相関解析以外にも、適宜、偏差解析、波形解析、頻度解析などを適用します。

状態診断の項目例